

経営塾での暗黙知を『経営哲学』に整理

一般社団法人アーネスト育成財団
理事長 西河洋一

経営に対する暗黙知を『経営哲学』として整理できたので、その概要を報告する。「経営者の心得」「人心の掌握」「技術を核にした経営」「事業の拡大」「人財の育成」の5項目に大分類した。

「経営者の心得」では①自分の力で考えて、それを行動していく、②より多くの人々が幸せに暮らせる住環境を創造し、豊かな社会作りに貢献する、③「実現可能な夢」を語り、高い目標を実現する、④ずっと考えているとパッとアイデアが浮かぶ、⑤企業においてお金は人間の血液、⑥経営者が百人いれば百通りの経営がある、⑦誠実な対応を謙虚な姿勢で取り組む、⑧真実を見抜けることが経営者には重要になると8項目をあげた。

⑦の誠実な対応とはどういうことなのか。誠実な行動を心がけても問題を起こしてしまうことがある。問題を起こした時には、自ら現場に立ち、誠実に謙虚な姿勢で対応することが大切だと考えている。

「人心の掌握」では①人のせいにするな、苦境は自己を正すことにより開ける、②自分の考えをきちんと文字に表す、③先入観を捨て自分を低い位置に置いて人の話を聞く、④約束を守ることで沢山の味方をつくることができると4項目をあげた。

①人のせいにするな、苦境は自己を正すことにより開けるとはどういうことか。誰々が悪いとか、システムが悪いとか、多くの人が他人のせいにしてしまう。面接試験のときに面接官として、過去の失敗事例を報告してもらうことにしている。何故失敗をしたかと聞くと、大体みんな人のせいにする。そこを「自分が悪かった」という受験者がいたら、将来信頼できる社員になれる。自分の反省が言える人は、優秀な社員になれる。期待以上の成長をする可能性もある。

「事業の拡大」では①高い経営目標を設定し実現可能なビジネスモデルを描き切る、②会社を大きくするために重要なのは考える力と考えたことを行動する力である、③具体的に数値を意識することで会社は成長する、④極力コストを掛けないという経営方針、⑤利益とは欲してもなかなか得られないもの、⑥アーネストワン、社名で「誠実であれ」と社員に語る、⑦常に風通しを良くし、色々な考えを持つ人を入れる、⑧得意な仕事をそれぞれの持ち場で発揮する、⑨会社のお金を自分では1円も使わないと8項目をあげた。